



# コスモスだより

【ニューストピックス】

産婦人科

## 婦人科治療最前線

卵巣がんの分子標的薬治療「PARP 阻害剤」  
腹腔鏡下仙骨腫固定術 (LSC)

「婦人科お悩み相談室」

【医療チームのご紹介】

糖尿病自己サポートチーム

【お知らせ】

膵がんを早期発見！検診メニューが充実

～膵臓に特化した『膵臓オプション』が加わりました～

7階食堂再開のお知らせ

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2021 泉州かいづか」オンライン開催のお知らせ

## 病院の理念

### 基本方針

## 地域住民を守る良質な医療の提供

1. 医療を通じ患者さんの喜びが自らの喜びになるような職業人をめざします。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3. 患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。



産婦人科

# 婦人科治療最前線

科学の進歩が医学の発展を大きく後押ししています。その1つが『個別化医療』で、主にがん治療で実施されています。同じ臓器のがんでも、遺伝子や蛋白などの分子の違いによりタイプが異なります。遺伝子や蛋白を調べる技術の進歩により、タイプに合わせた最適な治療方法を選択する『個別化医療』が可能になっているのです。今回は、卵巣がんの個別化医療の薬剤『分子標的薬 PARP 阻害剤』をご紹介します。また、当院でも 2020 年より腹腔鏡下での手術を開始した、『骨盤臓器脱』についてもご紹介します。

## 卵巣がんの分子標的薬治療「PARP 阻害剤」

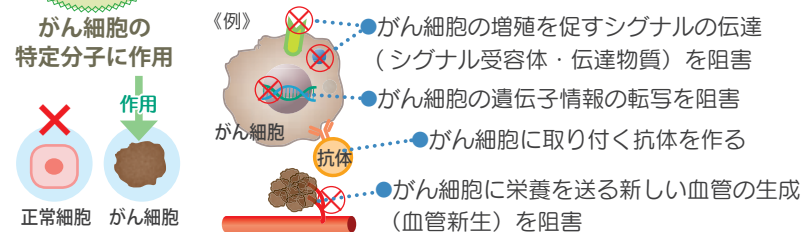
がん細胞の DNA の修復を妨げる「PARP 阻害剤」。経口薬剤 2 種が 2018・2020 年と相次いで保険適応となり当院でも適応のある患者様にへの処方を行っています。

### 分子標的薬とは

#### ■ 特定の物質の働きを阻害し、がん細胞の増殖を抑える

分子標的薬は、科学の進歩によって阻害の標的となる遺伝子やタンパク質などが分子レベルで分かるようになったことで誕生しました。抗がん剤と共に、または抗がん剤治療終了後に、再発リスクを減らし安定した状態を長く保つための維持療法として使用されます。

#### 分子標的療法 (分子標的薬) がん細胞に特有の物質 (分子) を標的として、働きを妨げるなど、様々な方法でがんの増殖を抑えます。



### 分子標的薬「PARP 阻害剤」

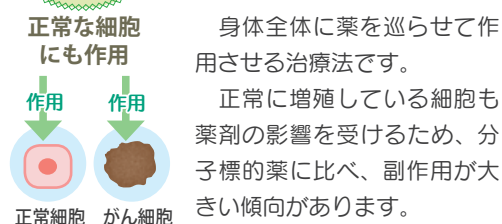
#### ■ がん細胞の DNA 修復を阻害し増殖を抑える

PARP 阻害剤は、DNA の 1 本鎖切断を修復する酵素「PARP パープ」の働きを阻害して、がん細胞の増殖を抑えます。DNA は様々な要因で損傷を受け、常に修復を行っています。通常の細胞では PARP を阻害しても他の修復機能により DNA を修復できますが、2 本鎖切断時修復酵素 BRCA の異常や HRD (相同組換え修復欠損) など DNA 修復機能が不完全な細胞では、修復できず細胞死してしまいます。そのため、卵巣がんが多く見られる DNA 修復機能に変異があるタイプの場合、がん細胞の増殖抑制効果が期待できます。

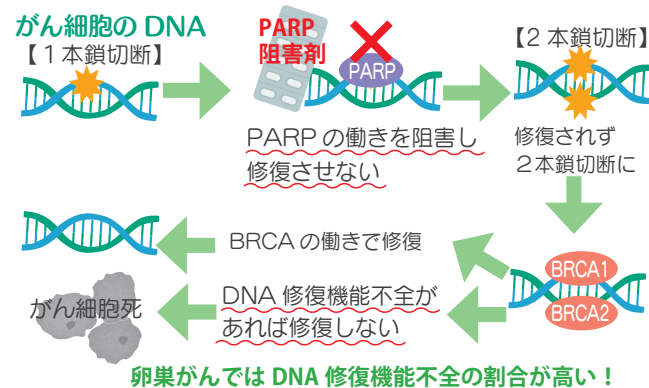
#### がんは遺伝子に変異した細胞の増殖

がんは、細胞の分裂と増殖に関わる遺伝子に異変が起こり、細胞が無制限に増殖する状態です。この異常の原因となる遺伝子は「がん関連遺伝子」と呼ばれ、100 以上が知られています。がんの原因になった遺伝子が異なっても、がんとして同じ症状ならば、同じがんに分類されます。

#### 化学療法 (抗がん剤) がん細胞の増殖を抑え、がんの再発や転移を防ぎます。



#### 「PARP 阻害剤」が効く仕組み



#### ■ PARP 阻害剤の対象者

分子標的薬は、全ての患者様に使用できるわけではありません。使用する薬剤の効果が期待できる遺伝子の変異があるか、病期 (ステージ) や病状などを総合的に判断します。

##### 【再発の卵巣がんの場合】

● プラチナ製剤を含む化学療法で、効果のあった方に使用します。

##### 【病期 (ステージ) がⅢ・Ⅳ期の方】

● コンパニオン検査 (DNA 修復に関する検査: HRD 検査または BRCA 検査) の結果を考慮して使用します。

## がん遺伝子パネル検査

#### ■ がん組織から「がん関連遺伝子」の変異を同時に多数検査する

生検や手術などで採取されたがんの組織から DNA を取り出し、患者様のがん固有の遺伝子変異を解析します。多くの遺伝子を調べ、がんの遺伝子変異の組み合わせが明らかになることで、正確な診断や薬剤の選定など患者様お一人おひとりに合った治療を行うことができます。但し、該当する薬剤等がない場合もあります。

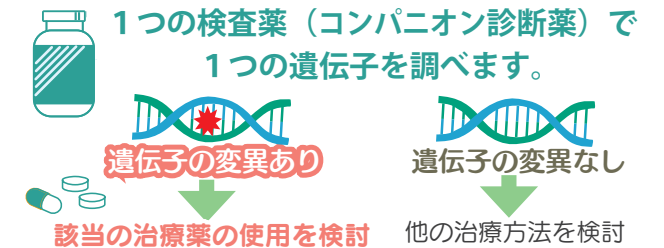
#### ■ がん遺伝子パネル検査の対象者

がん遺伝子パネル検査は、保険適応ではありません。また、検査は誰でも受けられるわけではなく、対象となるには条件があります。

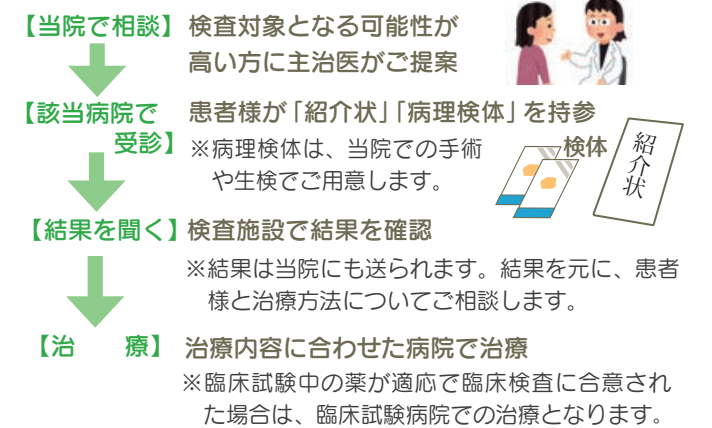
- 標準治療が終了した方または終了見込みの方、固形がんの方で、次の新たな薬物療法を希望する場合
- 原発不明や希少がんなど標準治療がない固形がん など

#### コンパニオン検査

個別化医療の治療薬が「その患者さんに効果があるかどうか」を確認するために行う治療の前の検査です。コンパニオン診断薬を使い、使用を検討している治療薬が対応する遺伝子の変異を検査します。



#### 「がん細胞遺伝子パネル検査」受診の流れ



#### 検査はどこで受けられるの？

- 全国の「がんゲノム医療中核拠点病院」
- 「がんゲノム医療拠点病院」「がんゲノム医療連携病院」
- で受けられます。大阪府内には 16 施設あります。

#### ◆ 個別化医療の発展途上の中、臨床現場でやるべき事に真摯に向き合う



横井 猛

(診療局長 兼 産婦人科主任部長 兼 婦人科腫瘍センター長)

遺伝子を解析し、患者さんにより効果的な治療方法や薬剤を選択する「個別化医療」は、がん治療を中心に目覚ましい進化を遂げています。違う臓器のがんでも、がんの遺伝子に共通の変異があれば同じ薬剤で効果が認められるなど、遺伝子レベルでがんを捉えるようになってきました。一方、これまでとは違った検査方法や薬剤を使った治療には、より専門的な知識と慎重な対応が求められています。

今回紹介した分子標的薬「PARP 阻害剤」にもいくつかの種類があり、対象となる患者様や使用するタイミングなどもそれぞれに異なります。薬剤の特性や違いを十分に理解し効果的に使用するための知識はもちろん、患者様の病状を正しく判断する経験や知識、検査対象である患者様の意志を尊重しサポートするチーム医療の体制があってはじめて「個別化医療」を実現できると考えています。

【資格】医学博士 / 日本産科婦人科学会専門医・指導医 / 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・指導医 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医・技術認定審査員 / 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 (ほか)



産婦人科

# 骨盤臓器脱の腹腔鏡下手術 「腹腔鏡下仙骨脛固定術 (LSC)」

中高年の女性に多い「骨盤臓器脱」。

「仙骨脛固定術」は、メッシュ（網状の医療用人工繊維）を用いて仙骨に脛壁を固定する術式です。腹腔鏡下での仙骨脛固定術が保険適応となり、当院でも2020年の8月より開始しています。

## 多くの女性が悩む「骨盤臓器脱」

女性の骨盤内は骨盤底筋群という筋肉や靱帯によって支えられています。この骨盤底筋群が、出産・加齢・肥満などで緩んでしまい、骨盤内の臓器（膀胱・子宮・直腸・小腸）がだんだんと下がってくる女性特有の病気です。膣から出てきてしまい、生活に支障をきたす場合もあります。

## 骨盤臓器脱の治療方法

骨盤臓器脱は治療薬がなく手術が原則です。リングベッサリーというリング状の器具を膣内に挿入する方法もありますが、根本的治療ではありません。手術の場合、メッシュ使用の有無やメッシュをどこに入れるか、子宮を残すかなど、患者さんの状況や希望により手術内容を検討します。

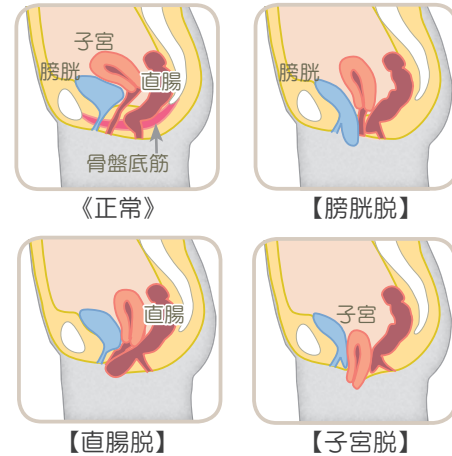
## 腹腔鏡下仙骨脛固定術 (LSC)

脛壁に沿って入れたメッシュを仙骨に固定して、脛を引き上げます。感染予防の観点から、子宮体部のみ摘出します。

腹腔鏡下手術では、腹部に1cm程度の小さな穴を数カ所開けるだけ。そこから手術器具やメッシュを体内に挿入し、腹腔鏡の映像を見ながら手術を行います。

### 腹腔鏡下仙骨脛固定術のメリット

- 傷が小さいため、痛みや出血も少なく低侵襲
- 体への負担が少ないため入院日数が短い（10日程度）
- 再発率が低い



## 「骨盤臓器脱」の症状

お風呂で、膣のあたりから  
ピンポン玉位の何かが出てくる

便が出にくく 夕方になると  
残便感がある おしっこが出にくい

下垂感があって  
股間に違和感がある

ちょっとしたことで  
尿漏れしてしまう



## ◆ 骨盤臓器脱を放置すると出血や歩行に支障も。そうなる前に相談を！



田中 あすか

（産婦人科医長）

骨盤臓器脱は、出産回数が多く更年期を過ぎた方には注意が必要な病気です。また、「重いものを持つ・便秘でさばる・肥満で骨盤に重みがかかる」なども原因となり、出産経験のない方でも発症します。早期であれば、骨盤底筋体操や便秘・肥満の解消などで症状の改善も可能ですが、残念ながら悪化してから受診される方が多いです。

完治を目指す手術には様々な方法があり、中でも今回ご紹介した腹腔鏡下仙骨脛固定術は、再発率が低く患者さんの身体的負担も少ない優れた術式です。活動的な生活を送られる年代の方に良い選択となります。しかし、異物のメッシュを体内に入れるわけですから、リスクはゼロではありません。大切なのは、患者様の病状と生活状況に合わせた治療方法を選択すること。そして何より、早期に対処することです。下垂感などの自覚所状があれば、放置せずにはまずご相談ください。

【資格】日本産婦人科学会専門医 / 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 / 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医

# 婦人科 お悩み相談室

## 生理痛、生理前のイライラ 我慢するしかないの？

生理痛の原因として、子宮内膜症・子宮腺筋症・子宮筋腫などの疾患が隠れていることがあります。一度婦人科を受診し、これらの疾患がないか確認してもらいましょう。

そのような疾患を認めない場合、痛みが軽度であれば市販の鎮痛薬で構いませんが、中等度以上であれば、低用量ピル等で症状の軽減が期待できます。また、生理前にイライラする等の体調の変化は、月経前症候群（PMS）と呼ばれています。漢方薬や低用量ピルなどの治療法もあるので、お困りの方はご相談ください。

## 子宮頸がん健診 受けた方がいいの？

子宮頸がんの予防は、健診とワクチンが重要と言われています。1～2年に1回の健診を受けることで、前癌病変（異形成）のうちに発見し、治療することが出来ます。早期に発見すれば比較的治療しやすい一方、進行すると治療が難しいため、早期発見が重要です。早期の子宮頸がんには特徴的な症状はないので、健診を受けずに早期発見をすることは困難です。

世界の先進国に比べ、日本では健診の受診率は約40%ととても低い状況です。積極的に受けることをお勧めします。

## 閉経後の不正性器出血 ほっといても大丈夫？

出血する原因は色々ありますが、その中で怖いものといえば「がん（子宮体がん、子宮頸がんなど）」があります。

婦人科を受診して出血の原因を確認してもらい、命にかかわる病気が潜んでいないか調べてもらいましょう。

## 子宮頸がんワクチン (HPVワクチン) 打った方がいいの？

「先進国で子宮頸がんが増えているのは日本だけ」と言われています。海外では、HPVワクチンが普及している一方、日本では接種率が低いことも原因の1つと言われています。

副反応が報道されていましたが、国内の大規模調査で、副反応と言われる症状とワクチンに因果関係はないという結果が出ています。WHOからも、HPVワクチンの推奨を中止している日本を強く非難する声明が発表されました。

政府による積極的推奨は中止されていますが、定期接種であることには変わりがなく、小学校6年生～高校1年生までの対象者は指定医療機関での無料接種が受けられます。

正しく理解した上で、打つか打たないか考えてもらえればと思います。

## ◆ 産婦人科の診察は内診だけではありません。受診を躊躇しないで！

産婦人科は、受診をためられる方の多い診療科の1つです。生理痛が辛くても「痛いものだし仕方ない」と我慢してしまったり、気になる症状があっても、受診をついつい先延ばしにしてしまう……。その原因の1つは、「産婦人科だと必ず内診がある」という思い込みにあるのではないのでしょうか。

当院では、まずは問診で症状をお伺いした上で、診療方法と目的をしっかりとご説明し、ご納得いただいた方に内診を行っています。若年層やどうしても難しいという方には、お腹の上からのエコーやMRIなど、内診に代わる検査を行うこともできます。

その症状の裏に潜む病気を見逃さないために、イキイキと毎日を過ごすために、気になる症状があれば、ためらわず受診していただきたいと思います。

【資格】医学博士 / 日本産科婦人科学会専門医・指導医 / 女性ヘルスケア専門医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医 / 母体保護法指定医

小笹 勝巳  
（産婦人科副部長）







## 「糖尿病教育入院」を多職種でサポートする 糖尿病自己管理サポートチーム

糖尿病は、一度発症すると完治する病気ではありません。重要なのは、血糖をしっかりとコントロールして合併症の発症や進行を遅らせること、患者様ご自身やご家族の方が糖尿病を十分理解された上で自己管理をしていくことです。

当院では、合併症の進行予防のための治療と自己管理に必要な知識を得るための「糖尿病教育入院」を行っています。

### 糖尿病の怖い合併症

血糖値が高い状態が長期間続くと……

- 糖尿病網膜症は失明原因の第2位
- 糖尿病神経障害で足の壊疽\*にも
- 糖尿病性腎症で生涯人工透析に
- 心筋梗塞や脳梗塞の発症 など、生活の質を下げるだけでなく、命にかかわる病気の原因となります。

\*壊疽 / 皮膚や皮下組織・筋肉などの組織が壊死し黒や黄色に変化した状態。

## 糖尿病自己管理サポートチーム

糖尿病教育入院では、  
医師をはじめ多職種が連携し、  
チームで対応しています。

「糖尿病教室」で医療スタッフがそれぞれの専門性を活かした講義を行う他、食事療法・運動療法などの血糖コントロール治療を通して、自分の生活スタイルに合わせた自己管理方法を習得していただきます。

糖尿病ケアの向上努めています。

糖尿病自己管理サポートチームは、教育を受ける糖尿病患者様にお渡しする「糖尿病テキスト」の作成や、インスリン治療薬切り替え時の院内マニュアル作成など、定例会を開き、糖尿病にかかわること全般を話し合っています。また、糖尿病患者様の症例検討会なども行っています。



### 「糖尿病教室」で糖尿病について学ぶ

医療スタッフが平日に交代で行う講義とDVDの視聴で、糖尿病の基礎から自己管理やケアの方法を学びます。

### 血糖のコントロール

食事療法・運動療法・薬物療法などにより、集中的な血糖コントロールを行います。

### 糖尿病合併症の予防と進行の防止

血糖変動パターン分析や糖尿病合併症に関する検査など、外来では難しい検査を実施。合併症の進行予防につなげます。



看護師による  
フットケア



理学療法士による  
運動療法



管理栄養士による  
栄養指導



薬剤師による  
薬の知識指導

「3週間も入院するのは難しい……」という方にも、  
外来で看護師の専門的なケアが受けられる、糖尿病患者向けの看護専門外来があります。

### ◆フットケア外来（完全予約制）

《日時》毎週木曜日 9:00～15:00

糖尿病患者さんの足は「神経障害」「血流障害」が起きやすく、そこに靴擦れ・外傷・熱傷などが加わることで感染や潰瘍が引き起こされます。爪切りなどのケアなど、予防やセルフケア方法を指導します。

### ◆糖尿病看護外来（完全予約制）

《日時》第1火曜日・第2月曜日・第4金曜日

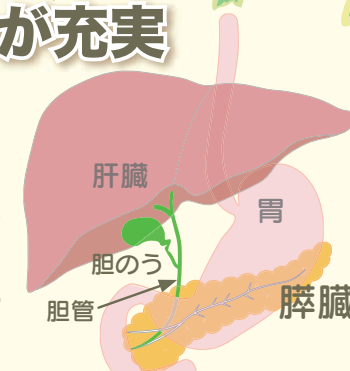
9:00～12:00

糖尿病の血糖コントロールを良好にするために、専門的な知識・技術を用いて糖尿病の自己管理をサポートします。希望されるかたは主治医にご相談ください。

## ■膵がんを早期発見！検診メニューが充実

～健診センター がん検診オプションメニューに  
膵臓に特化した『膵臓オプション』が加わりました～

従来の『膵臓・胆道系オプション』に加え、今年4月から膵精密超音波検査を使用した『膵臓オプション』を開始。膵臓がんの検診メニューを充実させました。超音波検査（エコー）は、苦痛や不快感がほとんどなく、放射線を使わないため被曝もありません。どなたでも安心して受けていただけます。



| 検査名                       | 検査内容                                            | 費用       | 検査内容                                                                                         |
|---------------------------|-------------------------------------------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>NEW</b><br>膵臓<br>オプション | (エコー)<br>膵臓精密超音波検査<br>+ 腫瘍マーカー<br>(CA19-9・血液検査) | 15,000 円 | 膵臓は胃の後ろに隠れるため、一般的なエコーでは膵臓全体を観察することができません。「膵精密超音波検査」では、水分を摂って胃を液体で膨らませ、膵臓全体を観察しやすくして慎重に検査します。 |
| 膵臓・胆道系<br>オプション           | 上腹部MRI 検査 (MRCP)<br>+ 腫瘍マーカー<br>(CA19-9 / 血液検査) | 35,000 円 | 膵管・胆管・胆のうを同時に撮影します。膵がん・胆道がんの他、膵のう胞性疾患や胆石・総胆管結石などを発見することができます。                                |

膵がんは、日本のがん死亡の原因の第4位。早期発見が難しいため5年生存率10%未満と治療成績は不良ですが、早期に発見できれば治療成績が飛躍的に向上します。早期発見に向けて、特に右記『膵がんの危険因子』がある方は、定期的な膵がん検診をご検討ください。

【お申し込み・お問い合わせ】

健診センター予約窓口 ☎072-422-5865

### 膵がんの危険因子

- 膵がんの家族歴のある方
- 喫煙される方 ● 飲酒量が多い方
- 膵のう胞や膵管拡張があると言われた方
- 糖尿病のある方（特に最近糖尿病を発症した方）  
や血糖が高いと言われた方
- 慢性膵炎のある方

## ■7階食堂再開のお知らせ

7階食堂を一時休業しておりましたが、7月27日からメニューも新たに再開しております。

「美味しく食べて健康」をテーマに、『難消化デキストリン』含有の食材を使用したうどんや丼・定食などをご提供。テイクアウトメニューもあります。『難消化デキストリン』は食物繊維の一種で、食後の血糖値上昇を抑える・食後の血中中性脂肪の上昇を抑える・ミネラルの吸収を促進するなどの働きがあります。是非ご利用ください。



【営業時間】

- ・平日 / 9:00～15:00（モーニング 9:00～11:00）
  - ・土曜 / 9:00～13:00（モーニング 9:00～11:00）
- ※面会制限が解除した後は平日は17:00までを予定。

## ■リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2021 泉州かいづか オンライン開催のお知らせ

リレー・フォー・ライフは、がん抑圧を目指し、がん患者や家族・支援者らが夜通し交替で歩いて勇気と希望を分かち合うチャリティイベントです。市立貝塚病院は、毎年このイベントに参加し講演会なども行っていますが、新型コロナウイルス感染症ため昨年に引き続き「オンライン開催」となりました。今年は、当院副院長の長谷川 順一医師による医療講演を予定しており、こちらでもオンラインでご覧いただけます。

【日時】令和3年10月30日（土）11:00～10月31日（日）11:00

令和3年  
10/30・31  
(土) (日)



詳しくは  
HPでご確認  
ください